

第4回援助効果向上に関するハイレベル・フォーラム

中野政務官ステートメント（仮訳）

この歴史的なフォーラムに参加できることを光栄に思います。アジアの国として初めてこのフォーラムをホストした韓国のリーダーシップを心から歓迎します。

南南協力についてお話する前に、まず3月11日の未曾有の大震災に際し、世界中の方々から頂いた温かい支援に対して、改めて深く感謝します。我が国は、国際社会に対し「開かれた復興」を達成することをお約束し、より良い未来の構築に積極的に貢献します。震災を乗り越え、我が国は世界の開発課題に取り組む主要なアクターであり続けます。

また、NGOのカンボジア事務所長として働いた経験を持つ政治家として、私は新興国を含む各国政府、民間部門、市民社会組織の間の新しいパートナーシップの重要性を強調します。

これに関連し、我々は成果文書を承認しようとしており、新興諸国がこのパートナーシップの意義とそこでの自国の役割の重要性を認識し、パートナーシップに参加することを強く奨励します。我が国は、全ての国がこのパートナーシップに建設的に関与するよう、あらゆる努力を行っていく所存です。

東アジアは、経済成長を通じてMDGsが求める指標を改善し、貧困人

口を減少させることに成功しました。アジアの成長は、国際協力を触媒として、民間セクターの活力を活用することで実現しました。こうしたアジアの成長経験が他の地域で活用されることを強く望みます。自国の経験を活かし、我が国は国際ルールを踏まえた援助を一貫して実施してきました。新しい包摂的パートナーシップを通じて、日本は東アジアの経験を他の地域に共有すべく努めていきます。

南南協力に関し、日本は長期に渡って多大な実績を有します。日本は、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイ、アルゼンチン、ブラジル、チリ、メキシコ、エジプト、ヨルダン、モロッコ、チュニジアの 12 カ国と南南協力を支援するパートナーシッププログラムを締結しています。

食料安全保障は我々が直面する喫緊の地球規模課題の 1 つです。日本、ブラジル、モザンビークの三角協力をご紹介します。長期に渡る二国間協力を拡大し、我が国とブラジルは協力してモザンビークに農業支援を行っています。

もう 1 つの例は、理数科教育の教員研修についての日本とケニアの協力です。二国間協力に基づき、現在ケニアは日本と共に、他のアフリカ諸国に対して教員研修や技術支援を実施しています。

日本の長い援助の歴史は、日本がまだ被援助国であった 1954 年から始まりました。そのため、南南協力は、我が国にとって特別な意味を持ちま

す。我が国は、三角協力を最も重視する国の1つであり続けます。

我々は、良い未来の実現のため、共通の責任を負っています。本日、ここにお集まりの全ての関係者が、国際協調の強化に向けた決意を新たにすることを期待します。

アジア地域における我々自身の経験は他の地域においても適用できるものであり、個々の開発経験を共有し、全ての関係者が利益を享受できるパートナーシップを通じて、南南協力の拡大に繋げていくべきです。

ご静聴ありがとうございました。

(了)